

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価				
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策		
I 特色ある学校づくりを推進する。	1 学力向上を根幹として、各学科(普通科、スポーツ科、芸術科)の目標達成に相応しい教育課程を編成・実施する。	・習熟度別授業(数学・英語)に85%以上の生徒が満足している。 ・専門教科の授業に85%以上の生徒が満足している。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望に対応した必修科目及び選択科目を用意し、適切な科目選択を指導する。 部活動運動型の授業・専門科の少人数指導を効果的に実施する。 「羅針盤」の評価項目・具体的数値項目を4月中に全職員に周知し、自身の目標設定及び指導の指針とする。 積極的に生徒を認め、激励し、サポートする。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の満足度が上がるよう、数学、英語の習熟度別授業の形式、内容等をさらに工夫する。 専門科目の授業に対する満足度は高い。より一層の充実を図る。 年間を通じて達成することができるよう、中間申告における検証を行い、必要に応じ軌道修正をする。 健全な学校生活をおくることができるよう、環境を整備する。 					
	2 全職員が学校課題について共通理解を持ち、組織的な指導を展開する。	・各職員が[本年度の重点目標、「羅針盤」を指針として自己目標を設定し、教育活動の改善に努めている。		<ul style="list-style-type: none"> 職員と生徒で共に考え、規律ある学校生活を送れるようにする。特に集会等や委員会での呼びかけを大切にす。また、登校時指導や日常においてあいさつを積極的に教職員も行っていく。 	B		—				
	3 生徒の信頼に応える指導を基本とする。	・自分の学校を好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。		<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室と年2回の自転車点検、交通安全だよりの発行等を通じて、生徒の交通安全意識の高揚を図る。 	A		A				
II 生徒に健全で意欲的な学校生活を送らせる。	4 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	・登校時指導等を通じて、あいさつ・服装・遅刻防止に関する指導を進め、生徒のあいさつができてきているという評価が70%以上(教職員アンケートによる)、服装頭髪指導の係指導の対象となる生徒が15名以下、遅刻指導該当者が年間25名以下である。	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室と年2回の自転車点検、交通安全だよりの発行等を通じて、生徒の交通安全意識の高揚を図る。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 8月までの遅刻指導は2名、服装頭髪指導問題の係指導該当者も2名で昨年度より改善されているが、例年、年度の後半に遅刻が増えたり、問題が起こることが多いので、生徒に積極的に声をかけ、呼びかけていく。 					
	5 交通安全の意識を喚起し交通ルール・マナーの向上を図る。	・自転車点検や事故防止啓発活動を通じて、過失事故や重大事故を0にする。	<ul style="list-style-type: none"> 準備段階から生徒会役員等とともに企画立案をして、生徒が主役となるような行事運営を進めていく。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の交通事故で、加害事故が2件あり、いずれも軽傷であったが、事故防止の啓蒙に努める。 					
	6 生徒会行事等の内容充実を図り、生徒の自主性を伸ばし達成感を得させる。	・校内文化祭や送別会等の生徒会行事に満足している生徒が85%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 部活動紹介や活動環境整備により、加入率の向上と充実した活動になるように努める。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 準備段階での生徒会役員等との企画立案をより充実させ、いっそう生徒が主役となるような行事運営を進めていく。 					
	7 部活動の振興に努め、活気ある学校づくりを進める。	・部活動に加入している生徒が、70%以上であり、充実していると感じている生徒が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 部活動紹介等を通じた勧誘と活動環境整備をより充実させ、いっそうの加入率の向上と活動の充実に努める。 	B	B						
III 生徒に確かな学力・豊かな心を身につけさせる。	8 双方向の授業への取組を進める。また生徒一人一人に対応した指導を行う。	・学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 校長による授業観察、授業公開、教員相互の授業観察・授業研究を通じて授業改善を図る。 	C	C	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業、授業研究の成果を生かすより達成感、満足度が上がるよう授業を工夫する。 					
	9 授業時間を確保する。また授業と家庭学習を結び基礎的な学力を定着させる。	・生徒の家庭での1日の平均学習時間は、1・2年生で80分以上である。 ・実用英語技能検定の合格者が、2級5名、準2級40名以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の予習復習を徹底させる。週末課題の状況を職員間で共有し組織的に指導に当たる。 英語検定に対する生徒の意識を高めるとともに、基礎的な英語力だけでなく応用力も育成する。 	C	D	<ul style="list-style-type: none"> 学習量調査の結果を見ると、概ね目標は達成されている。家庭学習習慣の確立のためさらに工夫をする。 検定の受験希望者が少ない。英語の授業だけでなく、組織的に受験を働きかけ、受験者を増やす。 					
	10 継続的な読書を通じて知的・感性的に自らを鍛える習慣を育てる。	・「朝の読書」を含め、生徒が1年間に12冊以上の本を読んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 原則毎朝実施の「朝の読書」、図書館オリエンテーション、LHR読書会や推薦図書リストの発行などで読書への意欲を喚起する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 不読者を無くし、読書の質を向上させるため読書会やPOPコンクールなどの図書館活動を充実させる。 					
IV 生徒に進路目標を達成させる。	11 自らの進路への関心・意欲を高揚し、学習意欲の向上を図る。	・将来の職業や卒業後の進路について考え、進路実現のための課題を意識できた生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 二者面談、三者面談を通じて、生徒一人ひとりの進路希望を把握するとともに、進路実現のための適切な情報提供を行う。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 面談や進路学習が進路について考える良いきっかけとなっているが、目標が家庭学習に結びついていない生徒が多い。学習の習慣を定着させる。 					
	12 進路指導に関する情報を共有し3年間を見通した系統的な指導を行う。	・進路を考えるのに進路関係の行事や学習が役立っていると思う生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 各学年にあった進路プログラムによる進路学習や行事を推進し、生徒が自らの目標を適切に設定できるようにする。 	B	C	<ul style="list-style-type: none"> 進路行事を学年に合った効果的な内容に吟味する。保護者への情報提供を充実させ、家庭での進路の話し合いのきっかけとしてももらう。 					
V 生徒の心身ともに健康で安全な生活が送れるようにする。	13 生徒自ら健康の保持増進に努める姿勢確立のため自己管理に関する指導を進める。	・生徒の健康診断に基づく受診率50%以上。 ・熱中症やインフルエンザの予防に関する情報提供を適切に行う。	<ul style="list-style-type: none"> 健康管理に関する情報を発信し家庭と協力して取り組む。 月に1回の保健だよりによる情報提供。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 情報提供はよくできている。興味をひくような中身を考えていきたい。 					
	14 心身の健康問題を抱える生徒への適切な対応や指導を行う。	・不登校の生徒0を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 職員への情報提供や専門家によるカウンセリングを含め、組織的な相談体制を強化する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 専門家のカウンセリングの有効活用するためにあらゆる観点から情報を収集することを考えたい。 					
	15 学びの場としての教室等の環境の整備・美化に努める。	・校舎校庭の清掃・美化に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回実施の安全・美化点検簿を見直し、美化に取り組む。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携をしてより広範囲で活動できるようにしたい。 					
VI 開かれた学校・信頼される学校づくりを進める。	16 保護者との共通理解を促進する。また、地域社会との連携を図る。	・PTA総会、専門学科ガイダンスに積極的に参加している保護者が、前者が50%以上、後者が、80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会等の保護者あて通知が必ず保護者に届くよう保護者あてメールを活用する。保護者に対しての広報活動を徹底する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会等のPTA行事にできるだけ多くの会員が参加できるように、広報活動をより徹底する。 					
	17 webページやオープンスクール等により学校の活動を公開し、外部の意見を取り入れる。	・学校のwebページを月2回以上更新している。オープンスクールで「学校の様子がわかった」と80%以上の参加者が答えている。	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事を中心に校内の情報を広く発信し教育活動が理解しやすいように努める。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校のWebページを月2回以上のペースで更新している。さらに適切な情報発信に努めたい。 					
	18 校内研修等を通じて職員の使命感の自覚、指導力の向上等に努め、信頼に応える。	・服務規律に関する啓発を職員会議等で年10回以上行っている。教科別の研究授業、授業研究を実施し、授業力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な服務規律だよりの配布を継続し、啓発に努める。授業改善委員会を通し、教科別の研究授業、授業研究を実施する。また、センター等校外における研修にも積極的な参加を図る。 	B	—	<ul style="list-style-type: none"> 服務規律に関する情報を積極的に提供し啓発を図る。授業改善についての検証を行う。 					